

宇治市の 小中一貫教育

発行 平成23年3月

宇治市教育委員会事務局
教育改革推進室小中一貫教育課
〒611-8501 宇治市宇治琵琶33番地
Tel : 0774-21-1890
E-mail : ikkankyouiku@city.uji.kyoto.jp

平成24年度から小中一貫教育を全面実施し 9年間の連続した学びの中で 確かな学力と豊かな人間性・社会性を育てます

これまで小学校と中学校はそれぞれの目標を設け、学級担任制と教科担任制など異なった教育システムで教育を行ってきました。しかし、子どもたちの発達にも変化が見られ、中学校に進学した際に戸惑いや負担を感じて、学習や学校生活への意欲や向上心が減少してしまう、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる様子が見られるようになりました。

こうしたことから、これまでの小学校・中学校教育のそれぞれの良さを活かしながら、子どもたちが戸惑いや負担を感じることなく成長していける小中一貫教育が注目されるようになり、宇治市でも平成13年度から研究を進めてきました。

本市では、平成23年度の全面試行を経た後、平成24年度からは宇治市立の小・中学校で小中一貫教育を実施します。同時に現在宇治小学校校地に建設工事中の(仮称)第一小中一貫校も開校します。

小中一貫教育では、小学校と中学校の教職員が協力し、連携を強め、同じ目標のもと学習指導や生徒指導等を進める中で、義務教育9年間の連続した学びの中で、確かな学力や豊かな人間性・社会性を身につけた児童生徒を育てることを目指します。

小学校と中学校の良さをお互いに学び 指導方法の工夫・改善を進めています



小・中学校教員が指導方法の工夫・改善を合同で進める
研究授業(小学校6年算数) (北小倉小学校)

中学校区に配置された 小中一貫教育チーフコーディネーターを中心に 小学校と中学校をつなぎ小中一貫教育を進めています



小学校の授業に加わり指導する
チーフコーディネーター(右)
(神明小学校)

各校の小中一貫教育コーディネーターが、自校の小中一貫教育の取組をコーディネート(調整)する仕事をしています。チーフコーディネーターは中学校区のまとめ役として中学校区に1名配置され、他のコーディネーターと協力し、小・中学校の連絡調整を図りながら、中学校区での小中一貫教育を進める取組の中心となっています。

各校の特色を生かした小中一貫教育を

宇治中校区小中一貫教育チーフコーディネーター 宇治中学校教諭 田中 康

各学校の行事や授業を参観し、時には教室で一緒に勉強したりしながら各校の様子を見せてもらっています。その様子を小中一貫教育便りで紹介することによりほかの学校の様子を知ってもらうように努めています。また、各校の特色を活かしながら、校長先生をはじめとする先生方と、小学校と小学校・小学校と中学校の間のジョイント作りを形ある具体的な取組になるよう走りまわっています。

小・中学校教員の協力で 系統的・継続的な授業を進め 学力の充実・向上を目指しています

中学校区に配置した教科連携教員が、小学校の学級担任とともに小学校と中学校のスムーズな接続を図った学習指導を行っています。小学校と中学校の教員がチームティーチング（複数の教員による指導）を行ったり、中学校の教員が教科の専門性を活かして小学校の授業を担当したりするなど、小・中学校教員が継続的な連携・交流を進め、互いの教育内容の共通理解、教員の意識改革、指導力の向上を図ることにより、発達段階に応じた指導や小学校と中学校の学習を滑らかに連続させる指導を行っています。



学級担任・AET・教科連携教員で行なう
外国語活動の授業（菟道小学校）



教科連携教員と学級担任で行なう理科の授業
（木幡小学校）

中学校で活かせる外国語活動の授業を目指して

教科連携教員(英語) 宇治中学校教諭 森下恵子

小学校外国語活動が楽しさだけでなく、とどまらず中学で活かせる内容になるよう、①子ども達の発見や気づきの中から中学校で習得すべき文法内容が出てきた時には必要最低限の事は必ず説明する。②知っている英単語（例えばリンゴ、バナナ）であっても、英語としての響きやリズムを伝え、会話文については自然なテンポ・スピードで行う。上記①②を特に心がけて取り組んでいます。

子どもたちの興味・関心に応える授業を

教科連携教員(理科) 木幡中学校教諭 梅本 聡

「難しい理科」から「楽しい理科」をテーマに、物理・化学分野では中学校教員の専門性を活かして様々な実験を担当の先生と一緒に、生物・地学分野では観察だけでなく大型テレビやコンピュータを利用して様々な映像を提示しています。二人の教員で安全面に配慮しながら子ども達にきめ細かく対応し、興味・関心に応える楽しい授業を行っています。

小学校児童会と中学校生徒会の交流



いっしょに街頭募金活動をする北小倉小学校児童会と
北宇治中学校生徒会役員（近鉄小倉駅）

児童会と生徒会の交流を経験して～ 児童会のみならず頑張りたくさんの善意が

北宇治中学校生徒会長 今井 美菜世

赤い羽根募金の活動はとても寒くて大変でしたが、児童会のみならず協力してくれて、短時間でたくさんの善意が集まりました。校区の小学校とは、駅伝の練習会や児童会・生徒会交流等を行っています。小学生にとって中学校の様子がわかりとても楽しかったようです。

小学生と中学生の交流を工夫し さまざまな取組を通して 子どもたちの豊かな人間性・社会性を育てています

小学生と中学生の交流を計画的・継続的に行い、中学校入学時の不安解消や、児童生徒の自尊感情の向上など、豊かな人間性・社会性を育てることを目指しています。小学校児童会と中学校生徒会の交流や合同の取組を工夫したり、小学校6年生の中学校体験入学で部活動体験や授業体験の機会を設けたりしています。また、小学校の行事に中学生がボランティアで参加したり、中学生が小学生の学習を支援したりする取組なども行っています。

6年生の中学校体験入学 部活動体験・授業体験



(写真左)
部活動体験で6年生を
やさしく教える中学生
（西宇治中学校）

(写真右)
授業体験で中学校教員から
国語の授業を受ける6年生
（横島中学校）



中学校部活動体験の感想 (伊勢田小学校6年生)

◆一番楽しみにしていた。コツをていねいに教えてくれたので簡単にサーブが入るようになった。(ソフトテニス) ◆中学生がものすごいスピードでバスを回っていてビックリしました。僕もがんばって練習したい。(バスケット) ◆中学生とペアを組んで練習をして、「レシーブうまいなあ」と言ってくれてうれしかった。楽しく満足しました。(バレーボール)

中学校授業体験の感想 (北横島小学校6年生)

◆社会の先生がとてもおもしろくて授業がすごく楽しかったです。中学生になったら、続きをまたやってくれるそうなので、早く中学に行きたいなあと思いました。 ◆初めての中学校の授業はけっこう楽しかったです。また、授業を受けたいです。

小学校高学年における一部教科担当制で 担任以外の教員が授業にかかわることにより 常に多くの教員で児童の成長を見守っています



交換授業で、5年生全クラスの社会の
授業を担当する教員（大開小学校）

小学校高学年における、一部教科担当制は、従来の学級担任による教科の指導を、学級担任間の交換授業や他学年の教員による指導、また中学校の教科連携教員と学級担任による連携授業などにより、学級担任以外の教員が教科の指導にかかわる制度です。

教科担当制を進め、担任以外の教員が授業にかかわることにより、児童にとって常に多くの教員に見守られているという安心感も生まれています。また、教員にとっても、授業を通じて担任している児童以外にもかかわっていけるため、学年の児童全員を学年の教員で指導していくという一体感が生まれています。

小学校高学年での教科担当制のねらい

- ①教員の専門性を活かした教科指導により、一層魅力ある授業展開をし、児童の学習意欲を高め、学力の充実・向上を図る。
- ②中学校での学習形態への急激な変化を緩和し、小学校から中学校へのスムーズな接続を図る。
- ③教員間の緊密な情報交換や連携により、多面的な児童理解を進め、児童一人一人の個性の伸長を図る。

教科担当制を実施して～

新しい学習に挑戦しようとする児童が増加しました

大開小学校教諭 信太 義光

教科担当制の取組を通して、教師が多くの児童と向き合う場面が増えただけでなく、常に多くの教師に大切にされ、期待される中で新しい学習課題に挑戦していくことが楽しいと感じられる児童が増加しています。さらに学校評価アンケートの結果等では、保護者からの小中一貫教育による学力充実・向上のための取組に対する「信頼感・期待感」も徐々に増えてきています。

中学生が小学生の学習を支援



学習支援を経験して (広野中学校1年生)

◆徐々に母校に帰ることができたうれしさと、教えることができた喜びでいっぱいでした。かわいい1年生と徐々にふれあえたのも良かったです。
◆6年生の時に1年生に関わった時と違い、なんだか1年生に少し気を遣ってあげられたかなと思いました

(写真左) 5年生のマット運動で小学生を支援する
北宇治中の生徒（北小倉小学校）
(写真右上) 1年生算数の授業で小学生を支援する
広野中の生徒（大久保小学校）

小学校の行事で 中学生がボランティア



小学校の運動会でマーチングを行う
宇治中吹奏楽部（菟道第二小学校）



↑小学校の行事で演奏・演技する南宇治中吹奏楽部・
中国文化拳術部(平盛小学校)
←小学校の運動会で玉入れのかごを持つ広野中の生徒
(大開小学校)

今までの行事も小中一貫教育の視点でとらえ直し 児童生徒が地域行事に積極的に参加するようにし 中学校を単位として保護者・地域との連携を進めています

小学校や中学校ごとの地域連携に加えて、中学校を単位としたPTA・育友会活動や地域諸団体との連携など学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの教育に携わることができる教育環境づくりを目指しています。

そのために、今まで取り組まれてきた行事を小中一貫教育の視点でとらえ直したり、小学校単位の取組に中学生が積極的に参加したりして、中学校を単位として保護者・地域との連携を進めています。

榎島中校区つながりミーティング

「就学前も含めた義務教育9年間+αで、地域と共に子どもを育てる」を愛（あい）ことばに、2小1中PTA、北榎島小学校支援地域本部が主催で携帯電話をテーマに開催。中学校区の小・中学校の保護者に加え未就学児の保護者も参加されました。

おもしろやんか木幡

木幡中校区健全育成協議会が主催し、小・中学校PTA・育友会や地域諸団体が協力し行う地域行事です。多くの子どもたちが参加し、中学生は運営にも協力しています。



たくさんのコーナーを設けて楽しいひとときを過ごします。(木幡中学校)

携帯電話について話し合う保護者
(京都文教短期大学)



誰でもいつでも誰とでも～

北榎島地域協議会代表 田邊 まゆみ

中学校を単位とした、保護者と地域住民による「つながりミーティング」を初めて実施し、携帯電話についてをテーマに、子どもを取り巻く環境や影響について話し合い、共通認識を持つ事で、地域ネットワーク作りの第一歩が始まりました。今後も、誰でもいつでも誰とでも～の気持ちで、連携を深めていけたらと思います。

祭りに参加してきた小学生が、中学生になって運営に協力を

木幡中学校区青少年健全育成協議会会長 巖 繁行

「おもしろやんか木幡」当日は、中学生が運営に参加・協力して、子どもたちやお年寄りのお世話をしてくれています。その中学生の姿を見ているため、地域の小学生が中学生になった時には、素直にお手伝いをしてくれています。小学生と中学生のつながりが深くなり、地域とのつながりも強くなってきています。



「ゴミを出さないイベント」に取り組む東宇治中の生徒（黄檗公園）

すくすくすく にしおぐらっこ

小学校の土曜日の居場所作り事業に中学生や高校生が協力しています。

おおばくまつり&スポーツフェスタ

地域力で青少年の育成を進める「東宇治ふれあいネット」が主催する地域行事。他にも幅広い取組を展開しています。



クリーン運動の後、小学生とドッジボールを楽しむ西小倉中の生徒（西小倉小学校）

ボランティア参加の中学生も社会性を学ぶ場に

おおばくまつり事務局長 東宇治中学校主幹教諭 永田 博嗣

地域の子どもの社会性や豊かな人間性などをはぐくむため、家庭、地域社会、学校が連携して地域全体で子どもを育てる環境づくりの場とすることを目的として実施しています。体育館ステージでは、小・中・高校の金管バンドや吹奏楽の演奏、それぞれの園・学校の作品を展示し地域や保護者の方に子どもたちの成長の過程を見ることが出来ました。また模擬店会場では、中学生がボランティアで参加し、地域の方々と一緒に活動することで社会性を身につける勉強にもなりました。

中学生の協力で児童がいきいきした表情に

西小倉青少年健全育成協議会会長 西川 千香子

青少年の健全育成の活動として、世代間交流夏祭り、自転車安全教室、七夕祭り、クリーン運動、餅つき大会など子どもから大人までの幅広い世代が催しを通して交流の輪を広げています。中学生や高校生に協力してもらうことで、児童たちがいきいきとした表情で楽しく遊ぶ姿を見ていると、この取組を継続していきたいと思っています。